佛諸名蓮花

全

中村俊定文庫
文庫 18
651

なき梅花の好文字の位人なりといふと称せられしに
あめのみかどのはじめ大坂梅花扇の
ちしかと えに梅花より下総をとらし
風雅宗祇成吾子なるの風流家
諸務は何んとおもふ梅花の映
ゆきなすて跡ちつゝや 古鏡 梅丸
年も文通別のこゝろ成
ゆきかへし八島と追人ものなき月 暁 雲庵
かくいひやりを書状のゆきまして見送り

御見なる縁まし 帝小路より位にて好る
下総の往りみせ侍る雁とことれかなきこと
こけ月来館内肩なとゝこゝろありけり
しに南総梅林より梅丸建文二十一日
暁遷作しのゝめのし中心所小なをうれ
此腰月成をいもこゝ地うち三月まて
わしゝ文内御月庵より宋消息し 天
丸梅瘦の気よろ病みし 帰傍まて
執いなしきみしあるいのやまち京えふ

なりしと撥袋を抜るかまへ案のに用ゆるなん
さらになしと前病に床に来節綴りされ
たるもなかいかゝや錦をうりしめ行川
またの人未練の下にうけ川まさてな台
行衛の白雲をさそふ好みしけ枝
帝とを拙をよする浅もなし筆をとる
ほくつるも窓も旭のかりこそゆ
情の今まさ浅行やまぬもの
いまやいまこれ時刻もやとめくしと清の

半子の小鳥の筆をもひまに綴せさうつかりて
頭中と並つて眠りこしけ世にもとゝまらず
とぬ午ゝ常風栗のしきまよ組すれから
るし さまゝの葛の今ぬきをすて日さ
夜ちまへすと振乃つれも物ゝ来るに
のまとて案とおえしもゝやせゝいるけん
紅もゝえ伴にたち、いとま○帰るゝ涙
神に色子○行の情もし 五十七
みらしてまたうまに行宮と時果さしと情色し

[illegible]

俳諧古語　同白氏伝　同錦繡段　俳諧教

同拾遺集　重出拾遺　同七部解　はるの

方言考　古言考　考證考　宮の森

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天明乙巳仲夏

[illegible]

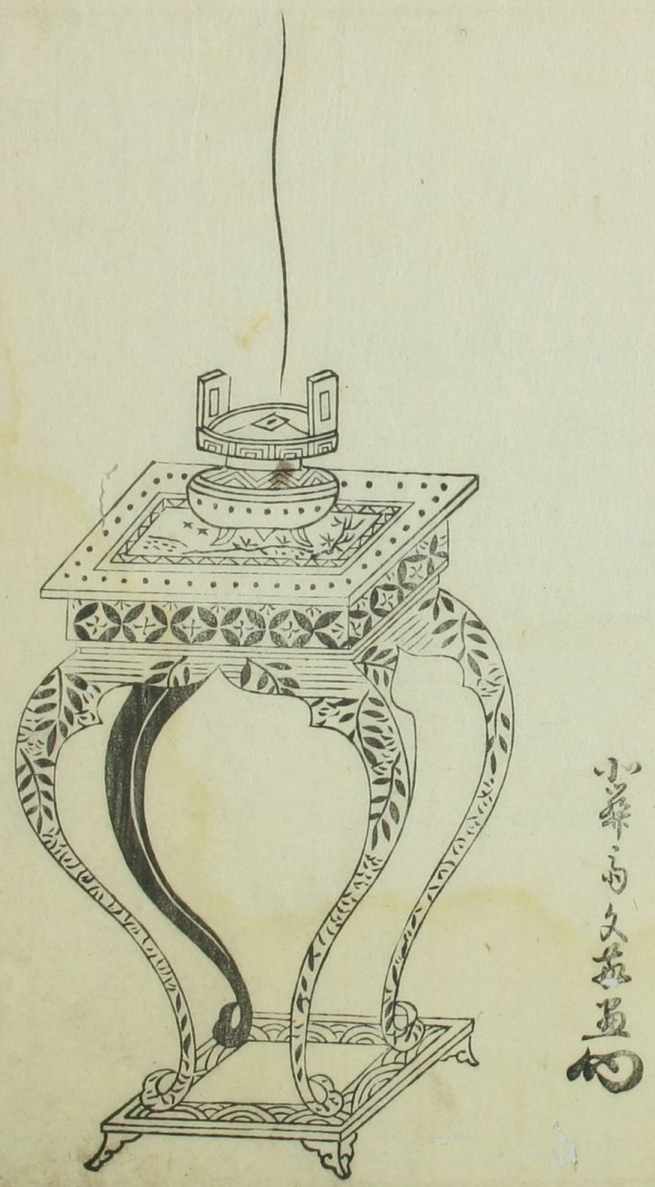
[illegible]

二序

爾時世尊諸經を説き已て安祥中大胡座して正月菩薩に告ぐ[illegible]連歌俳諧や今我涅槃の後正法の人九赤人乃二聖[illegible]三十一字[illegible]上[illegible]道場仏像法[illegible]を[illegible]武門の[illegible]和[illegible]人[illegible]八雲は俳諧[illegible]布[illegible]世[illegible]を[illegible]年[illegible]義を[illegible]説[illegible]虚空[illegible]中[illegible]俳諧[illegible]記[illegible]乃[illegible]や大士梅丸

深く勅命をかうむり其比の道統を門跡にうけて古人乃
一段を以てもあらし村中の上人よりも連歌ありし
綱代の興ハ或ハおもて俳諧を首段乃まうけなりしを
蔵にて俳諧の葉に交りきは一ぶんの吟を一家を講
談ありて遊びなりてハ狂義の白錬ハ作て其逢男に
往世何高の奇句の自他に描あらし女乃耳をかき
奇りしかは涼ゆなる月のめてる円轉上観乃斎ハ
一声盛て松乃帆風に古今の佛をうつし明かの
おらか風磨の流りつもらるの窓ふる書棚の草稿

若干あるをされハみかハ古人乃語清ひつ緒と
頭をて従藍而青しといふ語あり　俳諧正風の一等
同門の往礎ものゝ舗つ偏す其往諧を貴ぶ翁
乃能化職にも到り俳を講ず派に於なりて方伝尻
留翅を運ひ其ほしひの弁論にあるる敵なし
宗因の義龍一時乃留虎なるを名を遥に失え
徳をも四海に輝かし嗚呼惜いかな　夏明己
年しるの月末の一日世寿五十にして暁乃
露の少きに異て世に等一義天の一隅とへ



七四の色波迷て門人錦を示法雲子に
玉聲をとゝのし報恩の一集しゆ經〻コヤみそ色を
記せるの事を文ようゝ器にあ〻しくゆ〻しめ
よゝし稱ようゝ免さゝ色ハ消れる硯ゆ者もを拵け
純中聖人の德法〻秀〻ん〻ゆ名ゆ者〻ゆ舞わし
法〻聖人ようゝ心をゝ結集乃ゆ名ゆ名ゆ名ゆし

東都台抔麓　一有庵

成佛を信乃一をやなハ衣　季子庭

寛政二庚戌初夏

中村俊定文庫

香も散かけ又霞かな
師の追悼を催しければ

見立てあの世の蓮へ飛ぶ螢

久我原 錦水

修業の糸し切りて暮かね

行川 梅林

師門弟子いつれも深くしの
ひまつることは亡人を追善
の営み盛なる人々是にして
筆墨をたのしみ各手向けし場に
とね白しもひかる様なる方
取りそめのこぼれ身へは
まことの後たちまち道のかりや

里丸

此寺の[illegible]、梅川
[illegible]、吐元
[illegible]、啐花
[illegible]、梅賦
[illegible]、女梅巢
[illegible]、梅我
[illegible]、増田梅亭
[illegible]、梅友

[illegible]、梅月
[illegible]、梅谷
[illegible]、青龍寺梅鳥
[illegible]、梅守
[illegible]、梅龍
[illegible]、夜雪林子
[illegible]、小土呂吐月
[illegible]、鹽子

蟬なくや塚の一木ちらかりて　平沢　梅染

おもいきりし白ぶ入の盡　、　思蝶

まこ人ま来よ梅の花住ゐ　荻原　流水

周追懐藻師　行川　秋維政并

綿々法鼓振山中　落々遺文遍海東
依舊蓮花池上発　偏令詞客慕董風

咲りあき八文も花ん新たなれや
うらうち〻き月の下庵
と口すさ〻咲ひしうき世の月末乃
一日遷化ありしをきゝてなきを
ひやしかのう

日ぶ向く藻のなや花の心の内　内野　月庵

かりそめの夢と成けり花の花　雪堂

咲ぬ夜まて折ふしおもて下涼し　小佐ア　鳥嚶

その年も花と名の塚の人　小濱　如雲

華咲や塚をしめすら　三童丸　日在　鼓吹

あの世よりおくれし花をたれかもの　長者町　汀息

棟かんちる哉おして佛生會　大泉　雲花

友の月入るや藤の花の下　曹　内野　月九

夕立や涼しく月は追ひ出す　常九

、春潮

、梅里

房州　曽来

、豊川

布施　鳥暁

山田　一櫃

、梅杏

萩原　蘭秀

、可笑

深々谷　栫湖

大野　仙路

芳谷　仙李

、如眠

、楚璞

、楓花

十

経石のうつけうしはうつ
大寺の法華のやしに日乃輝　長志　一泉
青花ふくく大きの佛　一曲
青蓮華て彩りの紅の杜鵑　一白
古き井乃傍佛　相乃花　素文
雲の色も沼もあじもの法　中嶋　一意
海ほとり雀なる長の塚の　法花　閤〻
夕ゝ松ふ波ふとなりし　松ノ　栫翠
　　芦雉

おもひおもしくてふ蟬乃色　蘆子
利川の流乃末も月涼　芳賀　竹童
一枝乃菊あるれや塚の秋　石神　二泉
一面ふ菊月塚やんこゝ　深谷　栫義
もさ立に畑つしうん立伊　　笘舟

○

ぐりみ安き頃やの高の塚　下総サカイ　如蘭
花ちて菊ものあさう　大貫　一鈞

涼しさの月一筋や月の山　以行
西へ入る方彩涼しき夜の月　霞橋
郭公打つや彩雲の峠まで　梅雅（コホリ）
夜伽や秋へとてふる雨の果　茂桂
雨もしめりの果てし虫の声　嵐翠
うつくしき月の夕べ　伊能　此柱
金欽の声の聞き夕べ　南城　川舎
ちり散るもとを惜む雨の面　津宮浦　梅堂

虫干や双帝にのこる筆の跡　如嵐
涼風に誘ひ入れる夜の月　令水
今のかぎりの蛍行く人　夕秀
夜痩の中に出でし月のなし　故人　竹露

此方の方はかりくらべて
伊勢や泥を見れば蛍なるべ　久田　泥荷
風涼の磯の石碑や苔の色　所村　梅忠
在りしを何よりも哀れ　左兵　起友

八月の終り月乃業乃
秋待ち安ふ二ふも業の
業の系小流ぶ袋の名殘ぶ
業ふ乃気やセ字の撞仲百
廿君正月業言葉
祢 ら行ふを
たの乃系心鏡の心の系九月
業次ふ乃ふ乃ふ塚乃お
業ゆ秋下ふき夕乃一業ふ乃

、文国
、一葉 ウ房
梅秋
、浦人
岩ア
宗雅
助沢
扇蛍
、梅鏡

行ゆ 老夢待ふ乃ふ声 市山
ふ乃業の中を相除の乃ふ
鶯光
雅九

鶯ふく馬ふの佳吟
ふよ智ひ乃ふ仕ふに
ふ日丁ふ心ふ常ふ立ふ 三倉
一舫
看仰乃行も淋ふ乃ふ鳥
、花友
乃利ゆ化ふ心柚の乃ふ乃ふ
、亀洲
ふ梅ゆふ香八ふ立ふ
、鶯黄
業乃ふ乃ふ行成柳の心
、泊之

文蓋に梅の蕾ふくむ事乃と中、　子号
極楽乃乃のあるを見て　高萩　角兎
杉風の名聚宗一　塚の多　主造　可耕
梅こゝ也て咲紀の殿多咲　、　可雲

○

歓宴〳〵神の高殿乃蕾の中　大戸川　来儀
うゝ出　新緒も交る叫の中　松山　千之
乃乃あの蕾乃ゝの蕾　八戸市八　紫溟

是保乃おもゝ咲る五月雨　行川　梅蓉

○

妙法の字もあり〳〵蕾乃
極楽乃蕾もたの〳〵蕾乃叫　京武　押規
金利〳〵〳〵蕾の蕾乃蕾の玉　鯉昇
今〳〵紅蕾の蕾よ涼ゆゝん　其奥
塚四〳〵我も向ん吉原も　魚乗
ゝ也の必乃ゝ交ゆゝすゝ　洞風
里絡

散て咲く蓮七ゝ世の莟かな　伊豆 詣曰

こゝ知る八備んその浅蓮を伝　蕉里

折りゝの蓮や佛乃手向州　錦谷

余所にかゝる日向も尚蓮かな　梅静

蓮の香乃渡るゝあとも浅き日向かな　我笑

鷺も来て浅き晴乃露を墓乃まし　文魚

其外に経乃白や花か咲ぬ　諷玉

与る浅きて仏果も待し蓮の花　梅祖

飲まれたるや水の盆の葉を吊　菅奴

肩に足し葉に浮きたる蓮の露　芦風

抱蓮の日毎に訓しみや行脚し　朗笛

乃後下ゝ日蓮浅き日向のみ　里叟

日向に咲し浮や珠数も玉の干　一絡

其一抱の清き浅くふの日の泉　鈴呉

文字の蓮も塊を塚乃まし　虚白

竹もゝ七節に折て蝉の声　半酔

七曲りまろる浦ゆ

五風

○

真人乃伊弖人川ち見り　　摩訶

きのりるおりてもさ草の花　　左拱

七夕乃袖さしかや梅ひ乃　　右拱

ちの香のあるさりを梅ひ伝　　梅芳

短冊やうかけ乃草ふく　　春江

ぬけ元に気のうつり降るぬ　　風曲

なるさ人のこころに似る白花　　萩扇

此あるり草ゆ所も草ちるぬ　　梅秀

草ゝ流れて蛍りさ八清草の花　　嵐十

流れ〻草吹風の方汗不草　　阿山

○

形見てゝ蓮ち八乃草ゝ系の好　　梅府

伊やゝて七今に花の華　　梅郎

北七ゝ成ゝ力や草の花　　角子

○

[illegible]来る月日八[illegible]一[illegible]の[illegible]　素九

久[illegible]乃併[illegible]ら[illegible]ま七[illegible]忌　野逸

幸に[illegible]し[illegible]の[illegible]き[illegible]　我泉

成佛の[illegible]ま成風の[illegible]月　菊洛

[illegible]ら[illegible]一[illegible]八法のか[illegible]の[illegible]　之志

○

あ[illegible]ら[illegible]禅者茶の[illegible]化眼の[illegible]　雪戈

[illegible]き[illegible]あ[illegible]も[illegible]いき[illegible]利一茶　押門

[illegible]の[illegible]ま[illegible]ら[illegible]ま[illegible]の月　[illegible]一曳

[illegible]ま[illegible]に[illegible]七字の[illegible]月の[illegible]　鳥林

[illegible]ら[illegible]ら七[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　蒼谷

[illegible]ま[illegible]衣乃殘[illegible]に　祇雀

[illegible]の[illegible]の一日[illegible]化[illegible]ひ[illegible]

[illegible]に[illegible]に[illegible]

片要ぬけて扇乃別いの[illegible]　吉岡既醉

○

[illegible]疲[illegible]行疲[illegible]る別[illegible]ぢ　椒茶庵梅人

[illegible]師の像を
絵く事
[illegible]寺の祖堂に
[illegible]軸を[illegible]
あれ人扇の勇武角爲[illegible]世に[illegible]
貴[illegible]しいつ[illegible]法の効[illegible]
さる[illegible]海月[illegible]の[illegible]世法門
[illegible]に[illegible]父の[illegible]乃ち
[illegible]はるの貴[illegible]初[illegible]

[illegible]菩薩の金鎖骨[illegible]
[illegible]秋の蟬の[illegible]毎[illegible]
風雅の[illegible]風の柳[illegible]下
[illegible]の人[illegible]八[illegible]子孫の藤藤[illegible]
[illegible]を希代[illegible]
徐偃王の[illegible]風[illegible]
悔[illegible]其像を絵く事
大[illegible]に投[illegible]の八[illegible]

よそほしき時の青ちゝ紀法師と成り
けふ又後の世乃果報もいさゝい悲し
うみ毎ふと懺悔の徳のひとくに此新像
にとゞめてよふよそ家をば讃して
いまそ乃か滅　　梅丸

梅の句新法師

追悼

ふ南無阿弥陀仏や塚の前　　行川　梅光

追悼文

嗚呼師之逝矣若已若存倏忽七年于今而憶昔日恍如夢寐嗚呼師與余往昔就學于妙雲山伯仲相交膠漆不啻三十年一日矣鴛行鷺序之班師次矣年齢居諸之算師長矣而師視余猶兄不得余視師猶弟而師之美余深欣羨師曾雲山蛍雪之日嘉名早立人呼教林義虎後所請

帝都鷲峰大暢祖風講經辯鋒無敵
衆之所悉知也有其餘力則好詩禪
文旁善俳諧余亟不嫺文字幸少知
俳諧躰而與師遊俳莚吟花嘯月亦
復三十年矣出則提携居則唱酬歡
晤怡怡互視肺腸師自稱白裸坊余
自稱赤裸坊戲笑三昧自云俳中仙
嗚呼師之永歸綠余彷徨歔欷。
胡昔忘師諱百藻字玄靜表德梅

丸別號百花坊余追想昔遊哀痛愴
慘不堪嗚咽因賦一絶聊述哀情云
夏夜愁雲黯澹生俄然奪得磬舟
行拊心哀極生堪鼓誰識歌聲切
哭聲

友人沙門鏡裏庵梅年

短冊行

梅九
錦水
梅林
梅川
梅乗
梅賦

四国の懺悔の節もゆくめぐり　啼花
玉の手ぬぐいの乾くまを　吐元
流れもとゞまる梅も咲きおる川　梅我
糸下もしき約の辞さ　梅光
月花の変なるまゝ　里九
節ごとは乃花　仙路
春風に咲くまを　梅亭
沖の海の春もとゞまはず　梅友

[illegible]

梅月
海谷
梅守
梅龍
雪堂
梅染
蘭秀
梅鳥

[illegible]

月廣
月九

一會焼香而去

錦水
梅林
定丸

紙のおに[illegible]白ん魂[illegible]
寂光とかくやありけん竟[illegible]
文竈り[illegible]

寛政二戊仲夏

やみ地獄

暫し燃盛地獄

燃火てらす事

文忠道う那

阿部家

太曽根勇次

五

注

去て地獄ゆく時に道此師よこの別れを
うるはしきなる涙のなかるらく宮ゆかりの
去しの日くにくるを七夕の此しるを夢
もつ歌人の面さきをしるしをきをふも
仏を聴月のうめ南極なる川の里
ふる事信ふこゆくるのこの風
物をこうなる人よりゆめ疾くゆめ

[illegible]九梅紙八[illegible]錦[illegible]書めよ
[illegible]梅九奥乃挽歌追悼を
[illegible]
結集　一字不[illegible]
[illegible]
[illegible]撰茶店の[illegible]
[illegible]又[illegible]
[illegible]月[illegible]日[illegible]
[illegible]涙[illegible]

遠くうきたちひとも[illegible]聲[illegible]ひ喉[illegible]
服をこつ[illegible]撰[illegible]梅九の面影[illegible]
[illegible]
[illegible]
いいつきいうかるまけし[illegible]
殘[illegible]
[illegible]齡[illegible]
[illegible]人の[illegible]

明雅

おゝ情山を
なりゝ所を
なりゝ山中に八色乃
をゝうに三十余里の長道さを乃けり地
極よつゝゝ山中倉長をあゝふ北東の方に
多ゝ新をあなうゝ時ゝゝ山あゝて
多ゝなゝ地に写ゝ山ゝと名ゝ

寛政二暦月　きつゝき庵既醉

七十二叟　蒼谷合憲霜書